りんご栽培情報 第２号

令 和 ５ 年 ４ 月 １ ７ 日
Ｊ Ａ ア ル プ ス
富山県富山農林振興センター

１ 概況

園芸研究所果樹研究センター（魚津市）では、「ふじ」の開花始め（連続して１～２花開花した日）は４月 11 日（前年値４月 20 日、平年値４月 23 日）と早くなっています。

花芽の着生は平年並みです。高品質なりんご生産のため、摘果作業を適期に行いましょう。

２ 病害虫防除（成木基準）

（散布量：500ℓ／10ａ）

回	時 期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100ℓ当たり必要薬剤量
4	中心花 落花後 (4月中下旬)	黒星病、黒点病、うどんこ病、褐斑病 ハマキムシ類、キンモンホソガ (展着剤)	カナメフロアブル カスケード乳剤 マイリノー	4,000倍 4,000倍 20,000倍	25 mℓ 25 mℓ 5 mℓ
5	以降約 10日間隔 (5月初旬)	黒星病、黒点病、斑点落葉病、褐斑病 アブラムシ類、キンモンホソガ、シンクイムシ類 (果実の表皮障害防止) (展着剤)	デランフロアブル バリアード顆粒水和剤 クレフノン マイリノー	2,000倍 4,000倍 100倍 20,000倍	50 mℓ 25 g 1 kg 5 mℓ
6	5月上中旬	黒星病、斑点落葉病、褐斑病、 黒点病、赤星病 (果実の表皮障害防止) (展着剤)	ユニックス顆粒水和剤47 トレノックスフロアブル クレフノン マイリノー	2,000倍 500倍 100倍 20,000倍	50 g 200 mℓ 1 kg 5 mℓ

農薬散布の際は、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
また、周辺の他の作物や民家に薬剤が飛散しないよう十分注意しましょう。

コンフューザー利用殺虫剤削減体系の場合は、５月中旬頃に、コンフューザーＲ（100 本／10a）を設置してください（対象害虫：リンゴコカクモンハマキ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ）。

３ 摘果剤の使用方法

結実量の多いほ場では、摘果剤(ミクロデナポン水和剤 85)を利用して摘果作業の遅れを防止するとともに、果実の初期肥大や新梢伸長の促進、翌年の花芽の充実を図りましょう。

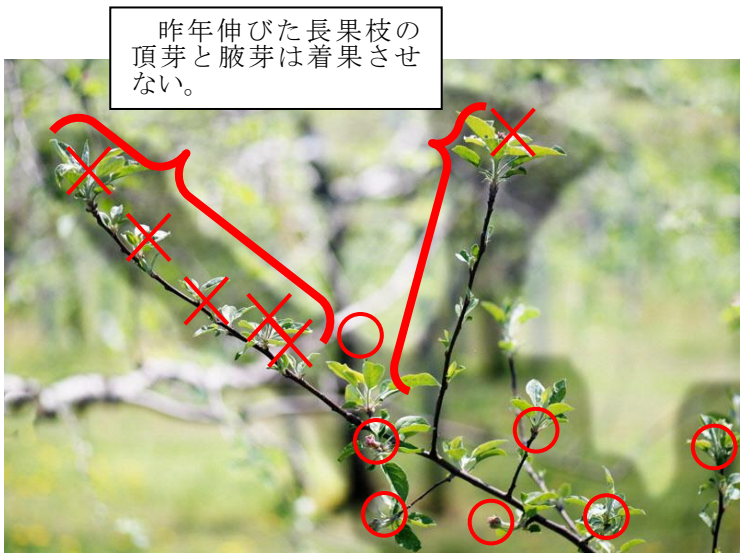
＜摘果剤使用のポイント＞

- おおむね満開から２週間後頃(ふじの中心果の満開が４月 15 日のほ場では４月 29 日頃)以降、中心果の横径が平均８㎜ の時が散布適期です。園地によって肥大が異なりますので、いくつか中心果の横径を測って、散布樹・散布時期を決定してください。
- ミクロデナポン水和剤 85 の希釈倍率は 1,200 倍です。展着剤を加用してください。
- 対象品種は「ふじ」のみです。また、結実が少なめの園では、散布を控えてください。
- ミクロデナポン水和剤 85 は殺虫剤ですので、天敵昆虫やマメコバチに悪影響があります。ハチを設置している園では、必ず巣箱を片付けた後に散布してください。
- 散布直後の降雨があっても、再散布は控えてください。
- 効果が現れるまで散布後２週間程度かかります。効果が発現するまで待たずに、ハサミによる摘果作業を進めて下さい。

4　腋花芽、長果枝先端芽の摘果について

昨年伸びた枝の腋花芽(先端以外の芽)と長果枝（30cm 以上）先端には果実は成らせません（写真１)。また、早く摘果すると腋花芽は来年果実を成らせる短果枝となりやすくなります。

腋花芽と長果枝の果実は、すべて摘果しましょう。



×：腋花芽、長果枝の先端芽、　○：短果枝

写真1 「ふじ」の着果位置

5　予備摘果について

（１）時期

ガク立ちを確認次第（写真２)、中心果を残して１果そう１果にします。小さな果実は大玉果として期待できないため、すべて落としてください。

（２）終了目標

満開１か月後までに終了してください。「ふじ」は５月 15 日頃までを目安に！

（３）注意点

①「ふじ」は中心果が実どまりしなかった場合は、大きく形の良い側果を残してください。

②「つがる」、「さんさ」、「王林」等の品種は側果を残すと、サビ果が出ますので中心果を残してください。

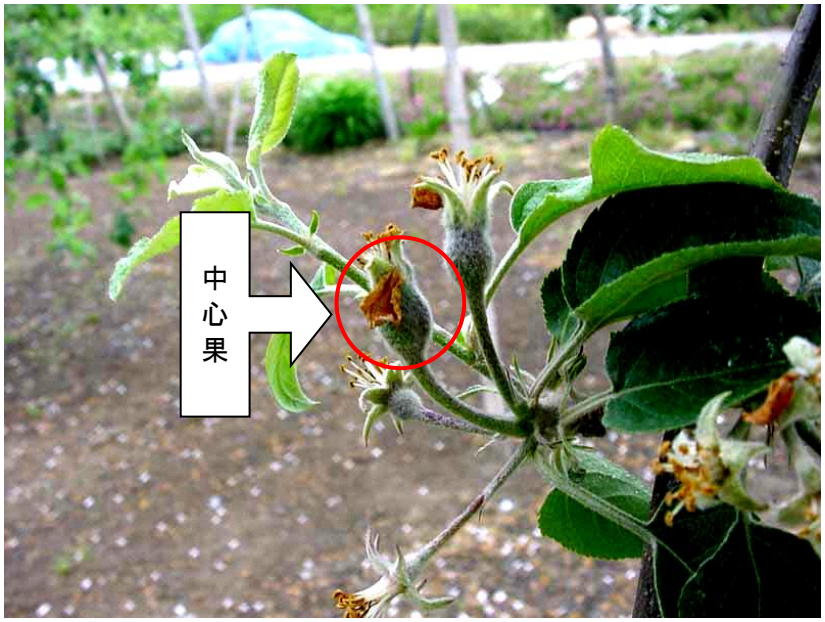


写真2 「ふじ」の中心果のガク立ち